



「日本の父親」として 真剣に説得してほしい

横田 早紀江

今年の5月に、元産経新聞記者の阿部雅美さんの書かれた『メディアは死んでいた／検証 北朝鮮拉致報道』（産経新聞出版）という本が出されました。

阿部さんは、めぐみが北朝鮮に連れていかれたことをいちばん初めに伝えてくださった、元朝日放送の石高健次さんと一緒にうちに来てくださって、本当にびっくり仰天しましたが…20年以上前のあの頃からずっとこの問題を追ってこられた方です。

それ以前は拉致なんて誰も聞く耳をもたない、むしろ排除されるような感じで、ご自分の身に恐怖を感じる状況が多かったそうです。以前から言い続けておられた3組のアベック失踪のことも、ずっとどこにも出せないでいた頃にめぐみのことが浮上して、本当にこういう事実があったのだと、明らかになってきたのです。過去に書きためていたものや、私たち親のその後のことも含めて全部書いて、一冊にまとめられたのです。

メディアは死んでいた…それほどメディアはこの事件を受け止めていなかった、報道してこなかった、そのことが大きな問題でもあらんと書かれています。

「これは拉致問題ではなく、拉致大事件なんです」と、私もはっ

きりと言っているのですが、これほどの大事件が、この日本に何十年も前から起き続けているのに、メディアは放送もしない、何も言わない、新聞にもほんのちょこっと載っただけで、誰も書いてこなかった…。

衆議院議員の故・梶山静六さんも、1988年に北朝鮮による日本人拉致事件を初めて政府が認めた公式答弁をされました。その頃から重大問題だと思っている人たちがあったにもかかわらず、表に出てくるのがなかった、それが拉致事件なんですね。けれども今、ここまで表に出てくるようになってきたのです。

拉致だけでなく、核の問題や他にも多くの問題があることが大きく報道されるようになりました。国のトップが、自分の親族でも誰でもあつという間に木っ端微塵に殺してしまうような国だったというのが、ようやく世界中にわかるようになってきたのです。それは、皆様方が一緒に祈ってくださって、日本中の方に支援していただいで活動を続けてきた中で明らかになってきたわけです。

拉致事件が解決しないいちばんの根源は、やはり北朝鮮の考え方が人間として間違っているからだと思います。自由主義国家では、



命の大切さという大事なことがわかっていますが、あちらではそういう教育を受けていないのか、もう全然見当違いで、理解できないのでしょうかね。国家の秘密を知っているから返せないとかそんな問題ではなく、大切な子どもたちを親元に返すのは当たり前なんだと、誰かが真剣に説得しないとわかんないと思います。

いつかは日朝会談がもたれるでしょうが、向こうが理解できるかどうか…でも言わなければもっとわからない。安倍首相も本当に大変ですが、日本の父親の立場で、「あなたのお子さんがもしそういう立場だったらどうするのか」と、はっきり堂々と言っていただきたいのです。これは難しいことですが、責任をもって心の問題を語り、説得することが根源的な解決につながるのではないかと、いろいろ考えながら暮らしております。

(2018年10月18日の祈り会より)